4. メタボリックシンドロームの疾患概念，診断基準と治療

大阪大学大学院医学系研究科生体情報科学
教授
木原　進士

[Summary]

動脈硬化性疾患の発症に，体重増加・高血糖・脂質異常・血圧高値の集積する病態が問題となってきた．この病態を一元的に捉える上で内臓脂肪の過剰蓄積が重要であり，それをウエスト周囲長でスクリーニングし，その上に血糖・脂質・血圧異常を複数合併すると動脈硬化ハイリスクと診断するわが国のメタボリックシンドロームの基準が設定された．

日本のウエスト周囲長の基準は内臓脂肪面積 100 cm^2 に相当することから決められており，「隠れ内臓脂肪蓄積」を検出するのに適している．

メタボリックシンドロームの概念が確立されたことで，動脈硬化予防のためにウエスト周囲長を減少させる生活習慣の改善を継続的に行う意義が明確になった．

Key Words：

動脈硬化□冠動脈疾患□肥満症□内臓脂肪□アディポサイトカイン

メタボリックシンドロームの疾患概念

栄養状態の改善に伴って平均寿命は延びたが動脈硬化性心血管疾患も増加し，健康寿命を延ばすことが重要な課題である．米国ではフラミンガム研究に基づいて高コレステロール血症の対策が進められた結果，血清コレステロールレベルは低下し，日米でほぼ同レベルとなった．しかし，動脈硬化性心血管疾患は期待されたほど減少せず，問題となってきたのが肥満の増加とそれに伴う血糖・脂質・血圧異常の集積した病態であった．

1980年代後半から，この病態を一元的に捉えようとする考え方が相次いで発表された．ReavenはSyndromeX[1]，Kaplanは死の四重奏[2]，DeFronzoはインスリン抵抗性症候群[3]，松澤は内臓脂肪症候群[4]という概念を提唱した．メタボリックシンドロームという名称の由来は，SyndromeXであり，Cardiac SyndromeXと区別するために付けられたMetabolic SyndromeXから転じて世界的に用いられている．これらはすべて類似した病態を症候群として提唱しているが，SyndromeXは各危険因子に重み付けをせず並べており，死の四重奏は上半身肥満に着目しており，インスリン抵抗性症候群はインスリン抵抗性を病態の上流に置いている点が異なっている．松澤らは1983年に世界に先駆けてCTによる脂肪分布の評価法を開発し[5]，内臓脂肪過剰蓄積が，血糖・脂質・血圧異常の上流に位置す

SAMPLE

Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.